

経団連北米ミッション サウスカロライナ州訪問について

2015年7月

在アトランタ日本国総領事館

一般社団法人・日本経済団体連合会（榊原定征会長（東レ相談役最高顧問）、以下「経団連」）は、今夏6月28日から7月3日にかけて、総勢100名で構成される大規模経済ミッションを米国に派遣しました。同ミッションは3グループに分かれ、計10州、14都市を訪問、各訪問先において連邦から州、郡・市レベルに至る政府、議会指導部、地元有識者や日米協会関係者等との政策対話が行われました。

榊原会長は、訪日前の記者会見において、このような規模で米国の各州をまわる経済使節団は経団連初の試みであると述べ、日米関係は政治・経済の両面で最も重要な二国間関係であり、経済界としてもこれを一層強化するために役割を果たしていくとの抱負を語りました。（経団連資料「6月25日記者会見」より）

3グループのうち、榊原会長が団長を務めるグループは、ワシントン特別区、メリーランド、バージニア及びサウスカロライナ各州を訪問しました。米国南東部の中でも、サウスカロライナ州への経団連ミッション訪問という観点からは、1986年に3回にわたり経団連対米投資ミッションが全米16州に派遣された際、派遣先にサウスカロライナ、ミシシッピ、フロリダ、ルイジアナ等南部各州も含まれていましたが、経団連に拠れば、今回のように経団連会長が団長を務めるミッションが米国南部の州を訪問するのは初めてのことです。今回サウスカロライナ州訪問では、州都コロンビアにおいて州政府、州議会は元より、ビジネス、教育関係者との交流行事及び州議事堂における州議会、商務省首脳との対話が行われました。また、一行は、その後チャールストンに移動し、ボーイング社航空機製造工場を視察しました。

7月1日、予定通り夕刻にコロンビア・メトロポリタン空港に到着した一行は、州政府主催歓迎レセプション及び夕食会に臨みました。会場となったのは、1894年開設の綿織物工場で今では米国国家歴史登録財として連邦政府にも登録される建物を改造した州立ミュージアムでした。レセプション会場に当てられたプラネタリウム・ホールでは、ロバート・ヒット州商務長官及びジェニファー・ノエル州商務副長官が榊原会長を歓迎の握手で出迎えました。レセプション、夕食を通じ、州政府、州議会、連邦議会、州・地域経済開発機構及び商工会議所関係者、主要日米企業、教育機関



榊原会長を出迎えるヒット州商務長官

等から100名以上が参加しました。レセプションは、サウスカロライナでの活動が27周年を迎えるフジ・フィルム社が、夕食会は創業150年の歴史を持つ地元大手テキスタイル業ミリケン社系列のパコレット・ミリケン・エンタープライズ社がメインスポンサーとなり、これら行事はサウスカロライナ州商務省が中心となって協賛機関、団体、企業との協力により企画・実施されました。

レセプションに続き、隣接するミュージアム・ホールに会場を移して開催された夕食会においては、冒頭、ヒット州商務長官より、経団連一行に対する歓迎の辞とともに、近年サウスカロライナ州が州知事以下官民一体となって経済開発への取組を行ってきた結果、同州がいかに国内外主要企業にとり魅力的な投資先となっているかについて説明があり、過去4年の投資誘致総額が50億ドルを超え、輸出も記録的伸びを見せているとして上で州経済の力強い発展を部分的に支えるのが日本との関係であるとして、日本からの投資に謝意を表明しました。

これに対し、榑原会長より、サウスカロライナ州政府による温かい歓迎に謝意を述べた上で、同州では約180の日系企業事業所が、17,000の雇用を生んで活動し、東レもスパルタンバーグ郡に炭素繊維生産工場建設予定、今後10年で1,000億円を投資予定、サウスカロライナ州の一員として活動することを誇りに思う、また今後経団連と同州との関係を強化していきたい旨の挨拶がありました。更に、「Revival of the Japanese Economy and the U.S. -Japan Relationship」とのタイトルの下、日本経済とアベノミクス施策の現状、日米経済関係、経団連による日米関係強化のための取組等についての講演が行われました。



歓迎夕食会で講演する榑原会長

続いて、サウスカロライナ日米協会よりクレイグ・ランドグレン及び伊藤功共同会長の乾杯発声により、出席者一同が日米協会から提供された日本酒で乾杯を行いました。

夕食後、須永和男在アトランタ総領事が挨拶に立ち、州政府の経団連ミッションに対する温かい歓迎に謝意を示しつつ、約2週間前にチャールストンで発生した銃乱射事件に短く言及した上で、あの衝撃的事件発生後に州知事及び州民が示した強さと連帯感こそがサウスカロライナ州の神髄であり、日本人、日系企業にとり同州を一層魅力的にしていると述べました。また、パナマ運河の拡張、米・キューバの国交回復、TPP交渉の進捗等により

今後サウスカロライナ、米国南東部は一層経済的重要性を増すことになると述べました。

最後に、ヒット長官より榊原会長に対し、「経団連によるサウスカロライナ州訪問の意義に照らし、2015年7月1日を『経団連の日』と宣言する」とのニッキー・ヘイリー州知事による宣言文が贈呈され、歓迎夕食会を終了しました。

翌7月2日には、州議事堂において、州経済開発指導部との会合が行われました。サウスカロライナ側からは、州議会の重鎮でボーイング社の誘致に中心的役割を果たしたヒュー・レザーマン州上院議長代行及びノエル州商務副長官が出席しました。日本・米国南東部会サウスカロライナ代表団団長等として8回の訪日経験を持つレザーマン上院議員は、経団連会長を団長とする米国ミッションのサウスカロライナ州訪問を歓迎し、今回の会合は約50年の歴史をもつ日・サウスカロライナ経済関係の発展にとり極めて重要である旨述べてその意義を強調しました。また、地元フローレンスで操業するホンダ・オブ・サウスカロライナ社を例に挙げつつ、良質な労働力、官民連携による企業支援体制等、同州が提供する優れたビジネス環境について説明の上、今後の日本との更なる関係強化に期待を示しました。



ヒット商務省長より榊原会長に「経団連の日」宣言書が贈呈された

榊原会長よりは、東レの炭素繊維工場建設計画に言及しつつ、米航空機最大手ボーイング社との提携は日米産業界の戦略的な協力関係の成功の象徴であり同社サウスカロライナ工場訪問を楽しみにしていると述べるとともに、サウスカロライナ州との関係に重要な価値を見いだしており、今後更に州関係者と意見交換を重ねていくことの重要性が指摘されました。

その後、経団連側団員、ノエル州商務副長官及びサウスカロライナ州立大学関係者より、今後の日・サウスカロライナ関係強化に向けた提案や情報提供が行われ、会合を終了しました。

経団連一行は、この後コロンビアから州東部チャールストンに移動し、ボーイング社ノースチャールストン工場を視察、7月3日にはサウスカロライナ州を後にしました。



州議事堂内で経団連一行とレザーマン州議会上院議員

経団連機関誌「週刊経団連タイムス」（2015年7月9日 No. 3231）には、訪米ミッションの成果が以下のように紹介されています。

（以下抜粋。全文は、(https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2015/0709_01.html)

「ワシントンD. C. では榊原会長が全米商業会議所において講演を行ったほか、各訪問先では、TPPや投資拡大、各州におけるビジネス環境整備等、日米経済関係のさらなる強化に向けた方策について意見交換を行った結果、わが国にとって最も重要なパートナーであり、「不動の同盟国」である米国との関係を一層堅固なものとするに寄与した。

また、一連の意見交換を通じて、アベノミクスはじめ日本経済の現状や日米関係の戦略的な重要性に関する経団連の考え方を発信し共通認識を深めたほか、TPP早期妥結の戦略的な重要性や日米経済関係のさらなる強化、進出日系企業への継続的な支援等について、各訪問先で認識を共有することができた。

経団連では、今次ミッションの成果も踏まえ、緊密な官民連携のもと、引き続き日米関係のさらなる拡大と深化に向けて取り組んでいく。」

（了）